

### 1 PLAN(目的・概要)

建設整備事業

政策名	物流・産業	29年度事業・施策評価結果			責任者	建設部 事業推進課長
施策名	国際・国内海上輸送機能の強化	成果	維持	コスト		
事務事業名	飛島ふ頭東側コンテナターミナルの機能強化事業	継続	維持	維持	連絡先 連携課	052-654-7921
目的	対象(誰・何を)	大型船によるコンテナ輸送機能			事業 期間	平成28~令和5年度
	意図(どうい う状態にしたいか)	飛島ふ頭東側において船舶大型化や老朽化への対策を進め、コンテナターミナルの取 り扱い機能強化を図ります				
概要	整備場所: 飛島ふ頭 内容・規模: 東南アジア向けコンテナ貨物の増加やコンテナ船の大型化に対応するた め、既存施設の老朽化対策と併せた水深15mへの増深改良 全体工事費: 325億円 事業手法: 直轄事業、貸付金事業				根拠 法令等	社会資本整備重点 計画法 名古屋港湾計画
事業着手時点の 評価	本事業を実施することにより、大型コンテナ船の喫水調整が解消され、輸送コストが削 減されます。また、今回の改良に合わせて岸壁が耐震化されるため、震災時における 代替港までの輸送費用が削減されるほか、岸壁の復旧に係るコストが削減されます。 費用対効果は、飛島ふ頭地区ふ頭再編改良事業全体で4.8です。				実施 義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
30年度の実施予定	国が飛島ふ頭東側コンテナターミナルR1岸壁について、水深15m化、耐震化の設計お よび 改良工事を行い、その内容について協議を行います。				関連 シート	

### 2 DO(実施)

30年度に実施した 内容・結果	国が飛島ふ頭東側コンテナターミナルR1岸壁について、水深15m化、耐震化の設計及び改良工事を行い、その内容 について協議を行いました。					
コスト	単位	28年度	29年度	30年度	合計(平成28年度~)	備考(費用の増減理由等)
工事費	千円	(105,000)	(1,452,000)	(2,692,600)	(4,249,600)	工事費の()は、国費負担分を含んだ金額です。
		35,000	484,000	897,533	1,416,533	
人件費	千円	5,017	2,941	2,950	10,908	
合計	千円	40,017	486,941	900,483	1,427,441	

### 3 CHECK(検証)

指標名	28年度	29年度	30年度	中間目標	30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
事業進捗状況 (全7工程)  (進行管理型)	目標	1	1	2		以下の項目のうち、完了した工程数を合計し ます。 【①事業採択、②調査設計、③R1岸壁改 良、④R2岸壁改良、⑤泊地、航路泊地浚 渫、⑥埠頭用地整備、⑦荷役機械整備】	
	実績	1	2	2			
	事業進捗状況(30年度)		順調・やや遅れ・遅れ				
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	予定通り順調に事業が進捗しています。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	○	コンテナ船は大型化が進んでおり、大型船に対応した港湾施設の整備の必要性は高いと考えております。					
有効性	○	飛島ふ頭東側におけるコンテナターミナルの機能強化は、上位施策の「国際・国内海上輸送機能の強化」に資す ると考えております。 本事業は施工中であるため、成果の評価は対象としておりません。					
効率性	○	コストが最小となるよう精査して事業を進めています。					

### 4 ACTION(取組)

5年間の状況	課題	令和元年度以降の取組	重点施策として位置付け継続
順調	船舶の大型化や施設の老朽化に対応するため、コンテナ ターミナルの荷役作業に大きな支障が出ないよう、事業を 進めていく必要があります。	関係者調整を行いながら、重点的に事業を進めていきます。	